

※ 日本標準商品分類番号 87 3319	
承認番号	22100AMX00586
薬価収載	2009年9月
販売開始	2004年4月

注入針付補正液

※ KCL補正液キット20mEq

貯法：遮光・室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱上の注意の項参照

※※注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

KCL Corrective kit 20 mEq

【組成・性状】

1. 組成

本剤は1本 (50mL) 中に塩化カリウム (KCl) 1.491g (0.4mol/L) を含有する。

〈電解質組成〉 K⁺ 20mEq/50mL
Cl⁻ 20mEq/50mL

本剤は添加物としてリボフラビンリン酸エステルナトリウム (着色剤) 6mgを含有する。

2. 製剤の性状

本剤は、黄色澄明の注射液である。

pH 約5.7 (製造直後の平均実測値)
5.0~6.5 (規格値)

浸透圧比 約2 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

電解質補液の電解質補正

【用法・用量】

電解質補液の補正用として、体内の水分、電解質の不足に応じて電解質補液に添加して点滴静脈内注射するか、腹膜透析液に添加して腹腔内投与する。

調製方法については、裏面を参照。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

本剤は電解質の補正用製剤であるため、必ず電解質補液又は腹膜透析液に全量を混合して使用すること (カリウムイオン濃度として40mEq/L以下に必ず希釈し、十分に混和した後に投与すること)。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

急速投与：高カリウム血症を起こすことがあるので、投与速度はカリウムイオンとして20mEq/hrを超えないこと (第一次再評価結果その28、1988年)。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

(1) 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮をすること (患者の皮膚や器具消毒)。

②着色剤として含有するリボフラビンリン酸エステルナトリウムは光に対して不安定で、分解すると退色あるいは沈殿を起こすので、外観に変化が見られた場合は使用しないこと。

③開封後直ちに使用し、全量を混合すること。また、残液は決して使用しないこと。

(2) 調製方法：添加したリボフラビンリン酸エステルナトリウムの着色を目安として均一に希釈して使用すること。

(3) 投与时：ゆっくり静脈内に点滴投与すること。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：塩化カリウム (Potassium Chloride)

分子式：KCl

分子量：74.55

性状：無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は塩辛い。

水に溶けやすく、エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

水溶液 (1→10) は中性である。

※【取扱い上の注意】

(1) 本剤並びに電解質補液等の首部を下へ傾けて接続すると、薬液がこぼれることがあるので、両者の首部をやや持ち上げ、両者のゴム栓に薬液が触れないようにして接続すること。

(2) 注入針は電解質補液等のゴム栓にまっすぐ、ゆっくりと刺すこと。

(3) 包装内に水滴が認められるものや内容液が混濁しているものは使用しないこと。

(4) 注入針には直接手を触れないこと。

(5) 誤穿刺に注意すること。

※【包装】

KCL補正液キット20mEq 50mL 10本 PLABOTTLE (注入針付)
PLABOTTLEは、弊社の開発したプラスチック製輸液用ボトルである。

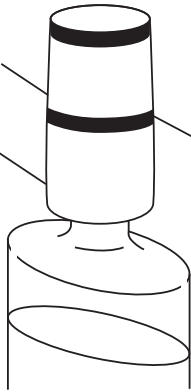
※

調製方法

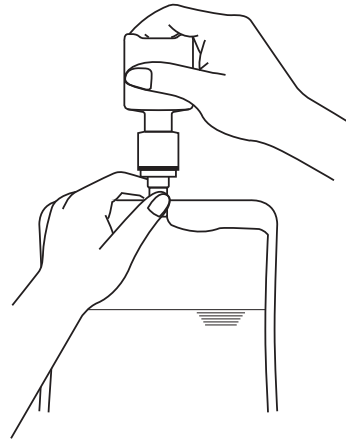
注入針部

(内部は滅菌済み)

キャップ
アダプター
ミシン目



3



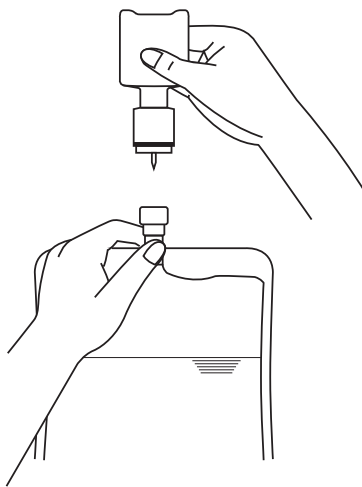
本品をポンピングして本液の全量を注入する。

1



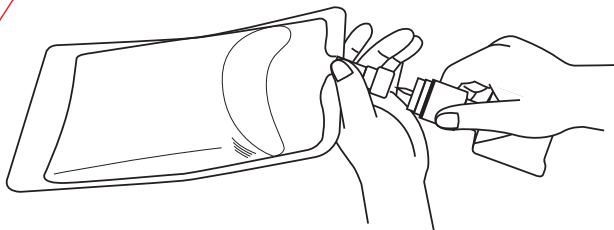
アダプターを持ち、キャップを開封の→方向に回してシールを切り、キャップを外す。

4



電解質補液の首部を保持し、本品を注入針部ごと抜きとる。

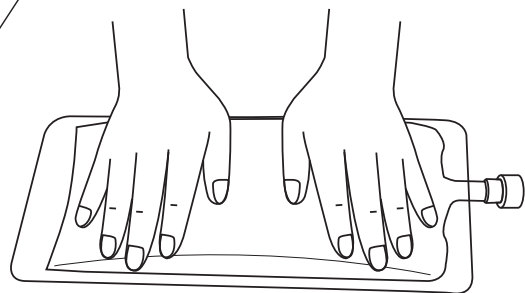
2



電解質補液（以下、腹膜透析液を含む）の首部及び本品のアダプター部を持ち、テーブル等を利用して首部をやや持ち上げ、電解質補液及び本品のゴム栓に薬液が触れないようにして^{注)}、注入針の先端を電解質補液のゴム栓にあて、注入針をまっすぐ、ゆっくと最後まで押し込む。注入針が完全に刺し込まれていることを確認する。

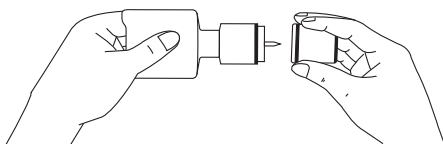
^{注)} ゴム栓に薬液が触れたまま接続すると、薬液がこぼれることがある。

5



電解質補液をよく混和する。

廃棄方法



廃棄時にゴミ袋を破ることがないようにキャップを装着すること。キャップを装着する場合には誤穿刺に注意すること。



Oisuka

販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田司町2-9

製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

5076 S